

【3 久留米市 Kurume City】



高良山（こうらさん）の山頂付近から

久留米市では、空気が非常に澄んでいる日には、本市を北東から南西へ流れる筑後川の橋や、久留米市役所（20階の展望ロビー）、中部の高良山や東部の鷹取山などから“[北東面の雲仙岳](#)”が眺望できます。少し変わったところでは、成田山久留米分院の大観音像（62m）の首の下の展望孔からも見えるといえます。

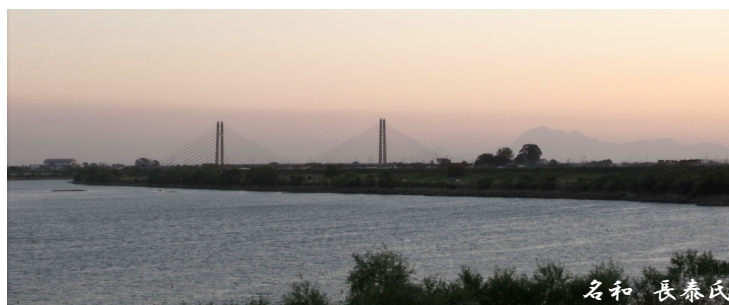
高良山の山頂付近には、かつての筑後国の一の宮（最も重要視された神社）とされた高良大社があり、その第五十世座主・寂源が編纂した“高良山十景詩歌”（江戸前期）の中では、高良山から雲仙岳が眺望できる様子（↑の風景）が漢詩に歌われています。また、江戸後期に九州を旅した多才な知識人・頼山陽（漢学者、歴史・文学・美術など多方面で活躍）は、佐賀城下から長崎へ向かう長崎街道の道中、高良山と雲仙岳を対比させて眺め、両山を夫婦（高良山を夫、雲仙岳を婦）に見立てて漢詩に歌っています。このような歴史ある高良山の風景・風物をゆっくり楽しめるウォーキングコースとして、平成27年11月に九州オルレ認定“久留米・高良山コース”が開通しましたが、同じタイミングで雲仙岳そびえる島原半島の南端を歩く“南島原コース”も認定され、同11月に開通しています。

筑後川をはさんで佐賀県みやき町へとかかる天建寺橋は、筑後川唯一の斜張橋（斜めに張ったワイヤーで吊られている橋）で、橋の上から、もしくは橋越しに、雲仙岳が眺められます（↓）。例年5月には“県境フェスティバル 天建寺橋大綱引き大会”が行われ、地域の物産コーナーも並んで賑わいます。橋の下を流れる筑後川の水は、やがて有明海に流れ込みますが、全国一の規模を誇る有明海の干潟の泥は、かつての阿蘇山の大噴火による噴出物を筑後川や矢部川などが日々流し込んでいるもので、その泥が外洋に流れ出さないのは、雲仙岳そびえる島原半島が有明海の水の出入口を狭めているためです。

雲仙岳の様々な表情を探しながら、久留米市内を旅してみませんか？

●久留米市の観光情報はこちら↓

久留米観光コンベンション国際交流協会 <http://www.kurume-hotomeki.jp/>



筑後川沿岸（佐賀県みやき町内）から